



道徳だより

2026. 2. 25号
みよし市立緑丘小学校



3年生「ぼくのボールだ」(内容項目C 公正・公平・社会正義)

ねらい

みんなが楽しく過ごすためには、一人一人の思いや願いをみんなで大切にしなければならないことを理解し、誰に対しても公平に接しようとする態度を育てる。

授業の様子

めあてを「みんなで仲良く遊ぶってどういうことだろう」として提示しました。内容項目はCのため相手だけでなく、周りのみんなである集団について考えます。子どもたちはみんなで仲良く遊ぶことが大切なことはよく知っています。誰もがみんなで楽しくできるように願っているけれど、つい自分や自分と仲良しの子だけに都合のよい考えで行動してしまいがちです。自分の周りだけの小さな集団だけでなく、みんなが楽しく過ごすために大切なことについて考え合いました。

教材名「ぼくのボールだ」の概要

休み時間の遊びはドッジボールが大人気だ。僕は、よくまさ君と同じチームになる。まさ君は、とても強いボールを投げるので、味方のときは頼もしい。僕たちは、まさ君が外野に出たときは、まさ君にボールを回している。今日は、まさ君が早々と内野で当てられてしまって、外野へ出た。まさ君は、早く内野へ戻りたいから、味方からパスをもらって何とか当てようとするけれど、相手も素早く逃げて、なかなか当たらない。まさ君がこのまま内野へ戻れなかったら、僕たちのチームは負けてしまうかもしれない。そのときだった、ボールが外へ出て大きくコートから離れていった。それをたかし君が追いかけた。ぼくもすぐ後から追った。たかし君が運動場の端まで転がったボールを拾ったので、後から追いついた僕は「サンキュー」と言って、ボールを取り、まさ君にパスをした。すると、「やめてよ。それは、僕のボールだ」とたかし君が大声で言った。「まさ君に回さないと負けちゃうよ」「そうだよ。僕に任せておいてよ」と、ボールを持ったまさ君も言った。たかし君は「ボールは取った人のものだよ。僕は自分で投げたいから、ボールを取りに行ったんだ」と大声で言い返した。相手から声がかかったのでまこと君が相手の方へ投げて、試合は再開された。それを見たたかし君は大きな声を上げて泣き出した。僕は、びっくりした。「まさ君に投げてもらわないと勝てないよ」「いやだ。僕が投げたいから取りに行ったんだ」僕は間違ったことをしたのかなと思いはじめた。

教材を読んだ後、ボールを取ったとき「たかし君はどんな気持ちだったか」と問うと「自分で投げて当てたい」「当てて内野に戻りたい」「取られてもいいから投げたい」など自分で投げたいという思いが多く出されました。続けて僕がたかし君に「自分で投げたいから取りに行ったんだ」と言われたときの思いを問うと「強い子に回さないと負けちゃうよ」「たかし君のボールでは勝てないよ」「勝ちたい気持ちは同じだよ」と僕の思いを答えていました。たかし君と僕の考えを比べながら「僕はどんなことが間違っていると思えたのだろうか」と問うと「勝手にボールを取ったこと」「勝ちたいなら言ってまさ君にボールを渡したこと」「勝ちたいという思いで頭がいっぱいだったこと」などが出されました。最後に「どうしたら仲良く遊べるのか」問うと「相手の気持ちを考えてあげる」「人の気持ちを考えることは難しいけれど、できるようになるとよいのかな」「自分がされて嫌なことはしないようにする」「投げたかったという思いを大切に」など、互いに相手のことを考えて自分も相手も「どうしたら、互いに嫌な思いをしないでよいのか」を意識することが大切であることを話し合いで見つけることができました。「分かっているけれど実行することは難しい」と言えるところに3年生としての成長を感じました。

